

真庭市医師会報



目 次

- ◇映画「男はつらいよ」
フーテンの寅さん考 1
- ◇理事会報告 3
- ◇週末はお肉を焼こう！ 12
- ◇ブラックとは
／奇才ジョン・ハンター 14

- ◇吉備路の
山全山縦走大会に参加して 18
- ◇会員の異動 21
- ◇編集後記 22

映画「男はつらいよ」フーテンの寅さん考

社会医療法人 緑社会 金田病院 金田 道弘

① 昭和が生んだ国民的映画

半世紀にわたり日本中を笑いと涙に包み、今も愛され続ける国民的映画「男はつらいよ」。1969年から2019年までの51年間に、第1作「男はつらいよ」から第50作「男はつらいよお帰り寅さん」まで、日本映画史に燦然と輝くシリーズ全50作品が製作されました。

観客動員数は、41作品で100万人超、13作品で200万人超という松竹映画の大ヒットシリーズ。総観客動員数は約8000万人(ランキング第8位、第1位はドラえもん・1億3300万人)。総興行収入は約515億円(ランキング第3位、第1位は名探偵コナン・1050億円)。

「1人の俳優が演じた最も長い映画シリーズ」としてギネス世界記録にも認定されました。

② 寅さんとの出会い

映画「男はつらいよ」でフーテンの寅さんに私が初めて出会ったのは、約半世紀前のまだ初々しかった高校生の頃。岡山市千日前商店街の映画館・岡山松竹(2006年閉館)にちょっと気恥ずかしい思いをしながら勇気を振り絞って入り、オジさん達に混じって笑ったり泣いたりしたものでした。それ以来昭和の名優・渥美清さん演じる寅さんとマドンナとの出会いと恋と失恋の物語は、金田青年にとって憧れであり、恋愛指南映画であり、反面教師でもありました。

③ ベストマドンナ・イチオシ作品

50作品には毎回美しいマドンナが計47人登場します。誰もが認めるベストマドンナは、

最多6作品に出演した浅丘ルリ子とされます。ちなみに第2位は吉永小百合、第3位は大原麗子です。(諸説あり)

映画評論家の評価が最も高い作品は、1969年公開の第1作「男はつらいよ」ですが、私のイチオシ作品は、何と言っても1976年公開の第17作「男はつらいよ 寅次郎夕焼け小焼け」です。寅さんとマドンナ太地喜和子とゲストスター宇野重吉、この3人の絶妙なバランスと迫力満点の演技は見応え十分です。感動のラストシーンは何度観ても胸に迫るものがあります。

④ 寅さん流「恋愛道」・「恋の作法」

寅さん流「恋愛道」の真骨頂は、寅さんがマドンナの幸せを心から願うことではないかと言われます。寅さんファンの神父さんが寅さんとイエスの共通点を描いた「寅さんとイエス」や「寅さんの神学」といった宗教的著書(共に米田彰男著)まであることは驚きです。

寅さんとマドンナの出会いと別れのストーリーには、ほぼ共通した寅さんなりの「恋の作法」があることに気づきました。

まずは「出会いの作法」から。寅さんは旅先で毎回美しいマドンナと出会い一目惚れします。そして寅さん独特の人懐っこさですぐに親しくなりますが、一旦余韻を残して引き下がります。そして次の出会いで寅さんはマドンナの心をグッと驚掴みにするのです。否、マドンナの魅力に寅さんの心は驚掴みにされるのです。

寅さんは、全50作品中48回失恋したとき

れますが、実はすべてのマドンナに振られたわけではありません。数々ある寅さん分析によると、好意を抱いた相手にすでに好きな人がいたことが分かり旅に出る、つまり振られたのが約10回。相手も寅さんに好意を持っているが「俺は相応しくない」として自ら身を引いて旅に出る、言わば「恋の敵前逃亡」が約30回とされます。親しくなってもそれ以上に人間関係を築こうとしないのが、マドンナの幸せを心から願う「男はつらいよ」寅さん流。

寅さん流「別れの作法」を一言で表現するならば、引き際が潔く実にカッコいいことです。今が潮時と気づいたらサッと諦めて旅に出る。決して深追いをしないのが寅さん流。その結果一時的に悲しい思いをしても楽しい思い出が心に残ります。考えてみれば、振られて悲しいのは自分だけですが、振って辛い思いをするのは相手の方です。状況によっては恨まれて包丁を持って追いかけて来られるかもしれません。そう考えると寅さんの潔い引き際は、自らの身の安全のためにも好ましい「別れの作法」ではないかと思えてきます。併せて新たな出会いに備えての「身辺整理」でもあります。

向学心に燃える金田青年は、師匠・寅さんから「別れは出会いの始まり」と「恋愛道」の総論を学び、さらに各論として「恋の作法」を学んだのでした。

⑤ 寅さんありがとう

山田洋次監督の映画のテーマは一貫して「家族、故郷、幸せ」であると言われます。寅さんシリーズの随所にも監督の思いが込められています。私は寅さんを通して、人生で最も大切なことは何かを学ぶことができたように思います。それは、①家族、②ふるさと、

③その人の幸せを心から願うこと、④どんなことがあっても挫けず前を向いて生きることです。

「男はつらいよ」は何度観ても、観るたびに笑えて泣けて、必ず温かく心地よい余韻に浸れる素晴らしい映画です。私は今でもテレビやDVDで繰り返し観ては、自らの青春時代と昭和の時代を懐かしく思い返すと共に、寅さんからいつも元気で笑顔をもらっています。寅さんと出会って半世紀、やっと「男はつらいよ」というタイトルの意味が理解できてきたようです。

寅さんは私たち日本人の心のふるさとです。寅さん本当にありがとう。今でも天国で恋して失恋してますか？

(注：渥美清さんは、肝臓がん肺転移のため1996年没、享年68歳。没後国民栄誉賞受賞)。

付記：寅さんに手軽に出会う方法

- ①BSテレ東7chで毎週土曜日18時30分から全作品を順次放送中。(残念ながら4月6日で放送終了)
- ②デアゴスティーニより「男はつらいよDVDコレクション」を隔週刊で発売中。
- ③YouTube松竹チャンネルで予告編映像公開中。